

2020年8月号 NO.39

◆法人の理念◆

「一人ひとりの"ちから"を信じ、当事者の思いを実現する。」 〜私たち (プシケおおた) は、関わる人・機関が持っている力とその可能性を信じ、 当事者の「こうしたい、こうありたい」という思いの実現に向かって行動します〜

- **◆運営方針◆** 職員行動指針;
 - ① 当事者中心 ② 自己決定 ③ 権利擁護 ④ 啓発
 - 5 協働 6 創造 7 研鑽 8 Win-Win

社会福祉法人 プシケおおた事務局 〒144-0051 東京都大田区西蒲田 4-4-1

TEL: 03-5700-6352 FAX: 03-5700-6753

E-mail <u>psyche-ota@mbj.nifty.com</u> HP http://www.koujiya-center.com/



地域で人が支え合っていくために

プシケおおた 理事 地域生活安定化支援事業 担当 岡本 洋

今年の夏は、異例ずくめの夏となりました。甲子園もなければ、お盆の帰省もなく、学校のプールも開かれず、人々は見えないウィルスの感染に怯えて暮らし、水害と猛暑に脅かされています。地方の観光地では閑古鳥が鳴き、観光に関連する事業に従事する沢山の人たちが職を失われそうになっています。町の飲食店にも、休廃業が目立ちます。そしてこの文章は、今年やっと開通になった常磐線の原ノ町駅近くのベンチで、電車待ちの時間に打っています。一日乗り放題の安い切符を手に入れて、上野から仙台まで常磐線を乗り通して、今その帰り道です。車窓から見るところ、原発周辺の帰還困難区域では家は朽ち果てつつあり、夏草の旺盛な生命力に田も畑ももはや半原野に戻っており、眺めているとその壮絶さに目を離す事が出来ないものでした。原発事故からの復興の道のりも、当然平坦なものではありません。

もちろん政府は極めて大規模な財政出動(2次補正予算額で160兆円!)で、コロナ禍にあえぐ国民の生活を下支えしようと必死です。一人十万円の定額給付金の他にも、持続化給付金、医療・福祉事業に関わる職員には慰労金がこれから配布される予定です。しかしこれらの給付金の類は、震災の復興税と同じく、天から降ってくるものではなく、我々自身の財布から出したものですから、当然我々自身で返済していかなければなりません。基礎的財政収支を均衡させる事が出来ないままに、税収3年分に相当する財政支出が行われつつある訳です。我々の将来の税負担については、覚悟が必要でしょう。平たく言って、人口減少・高齢化も進む我々の社会で、今までと同じような社会保障を将来にわたって継続することは、財政的に容易な事ではありません。これからは、福祉従事者にも単に予算を行政に要求するだけではなく、この困難な時代に社会を下支えする社会保障の一端を担う者として、自らの地域に合った新しい相互扶助の形を提案し、切り開いていく知恵と創造性が要求されることと思います。かつてのイギリスでのセツルメント運動のように、全国一律に組織化されたソーシャルワークから、地域に共生する住民としての創意工夫のあるソーシャルワークへの転換を、我々自身の手で準備しなければならないと考えています。

2019 年度 事業報告

こうじや生活支援センター・かまた生活支援センター

相談事業及び地域生活支援センターⅠ型事業

登	 録者	こうじや生活支援センター: 222名 かまた生活支援センター: 240名									
	基本相談(件)		面接	電話	訪問	同行	専門相談	連絡調整	ケア会議	生活支援	
相談事		こうじや	949	1,970	260	77	23	4,439	73	1,863	
		かまた	722	3,341	97	18	5	2,952	50	554	
業	指定特定相談	計画相談件数: こうじや183 ・かまた 182 計画作成数: こうじや153 ・かまた89 モニタリング件数: こうじや 529・かまた 286									
	指定一般相談	地域移行件数: こうじや 5・かまた 4 地域定着件数: こうじや14・かまた 2									
オ	オープンスペース 開所日数: こうじや207 日・かまた 190日 延利用者数: こうじや4,251 人・かまた 3,466人 1日平均利用者数: こうじや20.5人・かまた18.2人						6人				
行事(参加者数) こうじやセンター祭り(メンバー:33、地域:14 餅つき交流会(メンバー:44、地域:48) 芋								地域 : 12)			
タ	食サービス	実施回数 : こうじや76回 延利用者数: こうじや1720人 1日平均利用者数: こうじや21.2人									
生	活サポート	利用者数:	こうじや20	人・かまた	: 2人 利用	時間:こうし	ごや 909分	・かまた240	分		
	生活支援・ 地域交流プログラム等 実施回数:こうじや191回・かまた 176回 延利用者数:こうじや 1,467人・かまた762人										
ボ	ボランティア 実人数:こうじや 10人・かまた4人 延人数:こうじや106 人・かまた 26人										
実	実習生受入 PSW実習生: こうじや 3人・かまた9人 その他(看護・保健師・OT等): こうじや0人・かまた12人										

くこうじや生活支援センター>

2019年度も町会の防災訓練や盆踊りのイベントに参加することが出来ました。

センター祭り、餅つきの後に地域の子供たちを対象としたプラバン作りに加えて、11月にハロウィン子供お茶会として地域の子供さんたちと一緒にお菓子を食べ、プラバン作りを行い、地域との交流を深める事を大切に活動しました。

また、利用者から要望があった、節分、梅見、お花見等のお出かけプログラムや利用者の自主企画(手話サークル)を行うことが出来ました。それに伴い、ボランティアの人数が増えています。

2020年4月に新型コロナウイルスの影響でフリースペースの閉所を余儀なくされました。

その為、電話相談が増えていますが、電話で繋がっている事の安心を話してくれる方も多く、不安等で 面接が必要な方には、短時間ではありますが広い場所、換気のできる場所でお話を伺いました。

利用者が増加していた夕食サービスは、新型コロナウイルスの影響で3月から提供を中止しています。 現在はフリースペースの開所時間やプログラムを変更していますが、今後の活動や地域との交流活動に ついて、国や都からの情報や状況を踏まえて行っていきたいです。

くかまた生活支援センター>

2019年度のかまた生活支援センターは新しい職員体制で、支援とは何か等の基本を確認しながらの運営となりました。地域活動支援センターI型の生活支援事業と、計画相談や地域移行・地域定着といった個別給付系事業との両立が難しい現状は継続した課題でありますが、フリースペースの運営や基本相談を大事に行なっていきました。

計画相談は昨年と同程度の支援数であったものの、基本報酬削減の影響で収入減となってしまいました。地域移行支援では4件実施し、3名が退院に結び付きました。しかし大田区での地域移行を行う事業所は増えず、繰り返しネットワーク会議で問題提起していきたいと思います。

また現状の補助金では施設の安定的な運営ができないため、大田区障害福祉課に対して補助金増額の要望をこうじや生活支援センターと協力して資料を作成し行いました。今後も引き続き要望していきます。

3月末より新型コロナウィルス感染拡大防止のためセンターのフリースペースを閉所し、6月から感染予防対策をし開所しました。改めてフリースペースという場の大切さを感じ、利用者の声に耳を傾け、感染防止との両立できる範囲で、事業継続していければと思います。

地域生活安定化支援事業

支援実施者延数	1961人	訪問・面接・同行など	271件	電話	140件
家族支援	86件	関係機関調整	761件	その他の支援	405件

地域生活安定化支援事業は、地域活動支援センター I 型に付随する大田区の補助事業として、退院に困難を抱える方の退院支援と、地域で入退院を繰り返すなど生活が安定しない方の相談・地域生活支援を行う事業です。大田区は人口72万人の巨大な特別区ですが、単科の精神病院は一か所(62床)しかなく、入院が必要になった方の多くは多摩地区や、川崎市、練馬区、板橋区などの遠方の病院に入院になります。そのためご本人の体調が回復し退院できるようになっても、ご自宅への退院の準備や、グループホーム探し、地域生活に段階的に体と心を慣らしていく事が難しい状況にあります。国の制度で『地域移行支援給付』という事業もありますが、近くの病院も遠くの病院も給付額は一緒で、補助を受けることなく運営している事業所が、移動に時間が掛かる遠方の病院での支援を行うことは、財政的に困難な状況にあります。当事業は補助事業という利点を生かして、遠方の方や退院の準備に時間のかかる方の支援を丁寧に行っていきたいと考えています。

ホームプシケ

入居者数		32人(3月末)								
2019年度退居者	8名	退居後の状況	アパートでの単身暮らし	2名	施設	2名	入院	2名	その他	2名
2019年度新規入居者	7名	入居前の状況	入所施設	2名	地域から	1名	入院	4名		
	+ 414.	7 54 1 - 11 54 - 11			NT	\	1.1.1.1.1.1.5			(7 -7))

|ショートステイ(法人独自の事業) 入院中の体験宿泊 6名(実)/30日(延べ)(内、地域移行 3名/26日)・地域からの利用 4名(実)/10日(延べ)

サテライトの新設を事業計画に掲げていましたが、人員不足もあり年度内に動くことができませんでした。ショートステイ事業については大田区への要望、大田区議会への陳情を重ねましたが助成には至りませんでした。年度後半は人員不足もあり、入院中の方や地域移行の方に限定して受け入れを行ったため、利用者が前年と比べると減少しました。

入退居においては、医療や関係機関との連携の必要性があり、ケア会議や担当者会議を重ねました。グループホームでの生活の中でも、受診の同行同席、関係機関との連絡調整などを行い、退居後の地域での生活を送り続けられる協力を得られるよう支援を行いました。

2019年度は区分3以上の方が7人おり、一人に対する世話人の時間も増加しました。また、医療観察法対象者2名の退居後の支援も継続しています。

職員体制では新入職員が多い中、働きやすい職場環境づくりも課題となっています。各種マニュアルを整えていきます。外部研修以外に、事例検討やミニ学習会の機会を設け、学びの成果を業務に活かすことはできました。事故報告が2件(虐待・死亡)あり、宿直者も含め全職員での研修を進めていきます。

かまた生活支援センターと連携し、自立生活援助事業を申請しました。2020年4月より運営開始となり、 名称は「はるまち」になりました。

クッキングワーク街の駅

利用登録者数	38	1日平均通序	近者	10.9	平均年齢	47.1歳 開所日数		240
通所ペース		週1日	…11名	3、週2日	…14名、週3日	…9名、週4日⋯3名、3	週5日…	·2名
配食サービス全体	実施日数	237	食数	年間	8,762	1 E	日平均	37.0
昼食弁当		138		年間	5,591	1 E	3平均	40.5
夕食弁当		99		年間	3,731	1 E	3平均	32.6
作業内容	調理·配達·回収·	ポスティング	`•洗い!	物など				

2019年度で事業所開設から7年目となりました。前年度末、年度初めより新規利用者が増え登録者数は38名となりました。平均工賃は前年より微減したものの、水準は維持できています。利用者によって通所状況・作業内容は様々ですが、各個人に適した作業の拡充などに努め、引き続き工賃の維持・向上を検討していきます。

配食では、2019年下半期に食数が低迷しましたが、配達範囲の拡大や宣伝により2020年前半には大きく回復しました。食数増加などにより、調理スタッフの増員が必要と考えています。一方、厨房作業担当の利用者が調理補助の仕事を担う場面も多くなっており、今後は利用者を中心とした調理作業も試みていきます。

前述の通り配達範囲の拡大により、配達件数も増加しました。それに伴い配達作業もまた改善の余地がありますが、職員・利用者ともに意見を出し合いながら進めていきます。

前年度より引き続き、レクリエーション(蓮沼キッチンでのランチ、横浜中華街観光、お花見など)を 実施し、作業以外でも利用者同士で交流できる機会を設けました。2020年度もまた各関係機関とも連携 し、利用者それぞれのペースを踏まえた上で、通いやすい環境・関係を構築していきます。

2019 年度 決算報告(法人全体)

法人単位事業活動計算書

(自)2019年4月1日 (至)2020年3月31日

(単位:円)

		勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)−(B)
		剪 足件目	ヨ牛及仄昇(A)	則十及仄异(D)	↓百/吹 (A) ¯ (D)
		就労支援事業収益	4,191,065	4,077,520	113,545
.,	η ν	障害福祉サービス等事業収益	232,080,219	216,046,267	16,033,952
サー	収益	経常経費寄附金収益	865,000	2,070,000	△ 1,205,000
ピ	無	その他の収益	1,800,000	1,940,000	△ 140,000
ス		サービス活動収益計(1)	238,936,284	224,133,787	14,802,497
活		人件費	155,695,708	153,370,350	2,325,358
動		事業費	6,359,930	6,664,879	△ 304,949
増	費	事務費	53,131,595	54,531,017	△ 1,399,422
減の	用	就労支援事業費用	4,187,880	4,060,079	127,801
部		減価償却費	6,546,935	5,893,165	653,770
		サービス活動費用計(2)	225,922,048	224,519,490	1,402,558
		サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	13,014,236	△ 385,703	13,399,939
サート	ηД	受取利息配当金収益	5,691	5,511	180
ビス活	収益	その他のサービス活動外収益	856,513	1,048,411	△ 191,898
	ш	サービス活動外収益計(4)	862,204	1,053,922	△ 191,718
動外増減の	費	その他のサービス活動外費用	1,000		1,000
減	用	サービス活動外費用計(5)	1,000		1,000
部		サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	861,204	1,053,922	△ 192,718
		経常増減差額(7)=(3)+(6)	13,875,440	668,219	13,207,221
	収	施設整備等補助金収益		24,400,917	△ 24,400,917
特	益	特別収益計(8)	0	24,400,917	△ 24,400,917
別増		固定資産売却損·処分損	1		1
減	費	国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	△ 3,149,691	$\triangle 2,684,598$	△ 465 , 093
0	用	国庫補助金等特別積立金積立額		24,400,917	△ 24,400,917
部		特別費用計(9)	△ 3,149,690	21,716,319	△ 24,866,009
		特別増減差額(10)=(8)-(9)	3,149,690	2,684,598	465,092
当	期活	舌動増減差額(11)=(7)+(10)	17,025,130	3,352,817	13,672,313
繰越	前	期繰越活動増減差額(12)	95,686,396	92,333,579	3,352,817
活	当;	期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	112,711,526	95,686,396	17,025,130
動増	基	本金取崩額(14)			
減差	そ	の他の積立金取崩額(15)			
額の	そ	の他の積立金積立額(16)			
部	次	期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	112,711,526	95,686,396	17,025,130

	財産	目 録	2020年3月31日
I 資産の部		Ⅱ負債の部	
1、流動資産	114, 435, 564	1、流動負債	19, 444, 532
現金預金	91, 380, 599	未払金	11, 954, 706
未収金	22, 496, 294	預り金	995, 855
立替金	198, 760	賞与引当金	6, 493, 971
前払金	359, 790	2、固定負債	0
仮払金	121		
2、固定資産	61, 144, 522		
基本財産	10, 000, 000		
その他の固定資産	51, 144, 522		
資産合計	175, 580, 086	負債合計	19, 444, 532
差引純資産			156, 135, 554

自立生活援助事業 「はるまち」 が2020年4月1日開設しました。

病院から退院、またはグループホームから退居して、地域で一人暮らしを始める方で不安を抱えている方を支援するサービスのひとつです。定期的に訪問し、必要な助言や関係機関などとの連絡調整を行います。電話での対応や相談のうえ手続きなどの同行もできます。原則1年間のサービスになりますが、地域生活の手掛かりの第一歩として便利に利用していただければと思います。利用者の方と不安なことや心配なことを一緒に考えていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

※連絡先はホーム蒲田(5700-6352): はるまち担当になります。







こうじや生活支援センター



こうじや生活支援センターが毎年「福祉のまち糀谷 夏のお祭り」と共催していましたセンター祭りですが、今年は新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、中止となりました。

現在こうじや生活支援センターではマスクの着用や消毒をし、プログラムやフリースペースの開所曜日や時間を変更しています。今後安心して利用することができるように少しずつ再開していくとともに、その他の行事もメンバーミーティング等で検討していきたいと思います。詳細はおたよりやホームページでご確認ください。

大変な状況は続いておりますが、これからもメンバーの皆様と職員が一緒に話し合いながら新しいこうじや 生活支援センターを模索していきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。



かきた生活支援センター コロナ禍の中で



かまた生活支援センターでは、コロナウィルスへの予備知識が低く、知らず知らず感染リスクの高い行動を取ってしまっている人に対し、コロナウィルスへの正しい(とされている)情報と、また、罹患しない為に必要な行動はどのようなものか等を即座に伝えられるように常に職員がフリースペースにいる体制を取っています。

その結果、普段は遠慮をされて事務所にいる職員との会話を控えがちな利用者さんも気軽に職員にも話しかけやすくなったりと、利用者さんと職員の交流が増すことにも繋がりました。コロナ疲れでストレスが溜まっているというタイムリーな相談に近い話だけでなく、日々コツコツと取り組んでいる趣味について等の、相談では知ることの中々難しい、むしろその方のことを知るという意味でも大事な話も伺う機会が増えました。

お弁当の配達再開しました!

クッキングワーク街の駅

新型コロナウイルスの影響で街の駅も一時配食サービスを中止していましたが、8 月より月~金の通常営業に戻ります。事業所内での換気や配達時の消毒液の携帯やトレイでの金銭授受など、今まで以上に衛生管理を徹底しています。今まで経験したことない事態のなかで職員・メンバーともに協力し、お客様においしいお弁当を安全に届けられるよう日々試行錯誤しています。

新入職員紹介





稲田 奈緒美



刈屋 正和



平賀 直

今年の1月6日に入職しました。稲田です。コロナ禍で、4・5月はお休み。 6月からの再スタートを切らせて頂いたので、まだ4ヶ月目の新人です。

不器用で皆様にご迷惑をおかけする事も多々ありますが、皆さまの優しさに 支えられて日々を過ごしております。前職が病院だったので、生活支援との違 いに日々考えさせられる毎日です。根性だけは有りますので、どうぞよろしく お願いいたします。

この度 6 月よりこうじや生活支援センターの非常勤として入職いたしました、刈屋正和と申します。

障がいのある人の人権を守り、安心して自分らしく暮らし、当たり前に働いてさまざまな活動に参加できる地域づくりを目指し、誠心誠意、皆様のご期待に

添うよう尽力いたします所存です。不慣れで至らないところは多いと思います

プシケおおたに来て7カ月になりました。2月からはホームプシケで働いています。グループホームについて知ってはいましたが、実際に飛び込み、生活の場とはこういうことか!と実感しています。血縁はなくても家族、といった不思議な魅力がありますね。これまで温かく迎え入れていただき色々教えていただいた事、感謝しています。

異動職員紹介



濱口 正義 今年度、こうじや生活支援センターに異動しました濱口正義です。7年ぶりのこうじやです。この間、グループホームで勤務しておりました。コロナ禍の真っ唯中、誰もが「孤立」を強いられる状況下で、あらためて「つながる」ことの大切さを思いました。皆様、よろしくお願いいたします。

吉崎 允也 4月よりこうじや生活支援センターからクッキングワーク街の駅に異動になりました。 以前も5年間勤務していましたが、気持ちも新たに頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願いいた します。

平野 康雄 約7年ぶりのグループホームへの復帰となりました。入居者や職員も大きく入れ替わっており、またコロナ禍での異動となり、まだ慣れない日々を過ごしています。皆さんと協力しながら職務に当たっていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

復職職員紹介



金 裕理 コロナ禍の影響で育休が延長になり、7月にやっと復職できました。腕白盛りの娘から解放されて、通勤電車に揺れながら、仕事ができる有難みをしみじみと感じております。ソーシャルディスタンスと謳われる中、5年ぶりのホームはあまりにも密で、それでもやはり、対面での人との関わり合いがいかに重要なのかを考えさせられます。新鮮な気持ちがいつまで続くか不安でもありますが、適度に頑張ります。今後とも緩やかによろしくお願いします。

佐藤 祐美子 コロナ禍の影響で育休延長となり、7月から復職しました。育休中は子供と2人で過ごす日々だったので、こうして皆さんとお会いし、関わらせていただけることを嬉しく思っています。まだこの状況下で、体調や衛生管理に気を付けながら過ごす日々ですが、笑顔を忘れず元気に勤めていきたいと思っています。よろしくお願いします。

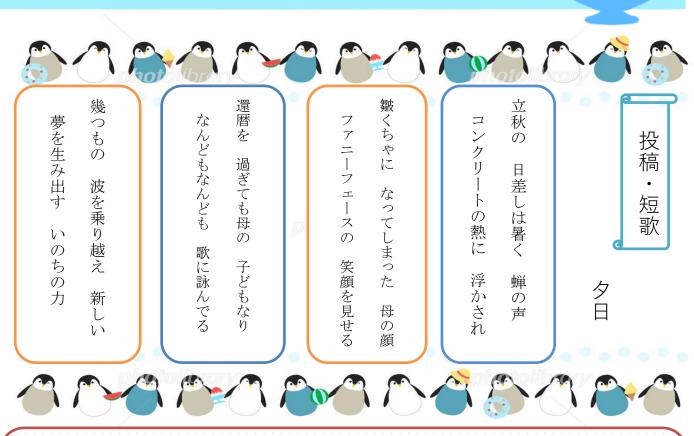


コミュニティスペース (CS) にしかまたの現況

新型コロナの影響で、2月半ばより6月半ばまでお休みしました。

その間、店の常連さんや近所の方から、いつ開くのかと何度か尋ねられました。残念ながら、 開きたくとも開けない現状が続きました。

そして、6月の第三週より毎週火曜日だけ開店するというお試し期間があり、7月から少し規模を縮小して開くことになりました。しかし、ボランティアのスタッフさんが高齢化などの事由により、開店時間の短縮、食事提供はしばらくやめ、コーヒーなどの飲み物だけにしました。この CS も今の組織で運営されてから4年経ち、前の法人運営から含めると9年余も過ぎます。地域に定着した感がありますが、運営していくにおいて高齢化の問題をひしひしと感じます。



編集後記 ;

新年度早々、新型コロナウイルスの影響で各事業所は対応に追われ、プシケおおたニュースの発行も 例年より遅くなってしまいました。日々変化していく状況の中、法人としても働き方の改善や感染防止 の対策など、臨機応変に対応していく所存です。

次号のプシケおおたニュースは、来年2021年1月に発行予定です。(廣野)

賛助会からの近況ご報告

コロナ感染の終息がなかなかみえないだけでなく猛暑も加わって、大変きびしい状況が続きますが、みなさま、お変わりなくお過ごしでしょうか。

ことしの賛助会は、諸般の事情から役員会や総会の開催を、書面で行うこととなりました。

2019 年度事業報告・2020 年度事業計画・監査報告書は別途、今回の法人ニュース (No.39) に別紙同封していますので、詳細はそちらをご覧ください。

その特徴として、<u>昨年度 2019 年の決算では、対前年度比で会員数が減少(個人会員 125 口・団体会員 4 口)し、</u> <u>雑収入も減少していることを重視し、今年度予算は会員数 80 口など収入予測を 45 万円で計上し、一方、主たる支出</u> で法人プシケへの寄付を、20 万円と昨年度比で 10 万円を減額しています。

次に、賛助会では法人ニュースNo.38(2020年1月号)にてご案内した映画「オキナワへいこう」上映への協力をする計画は、現在、上映実行委員会からコロナの影響が長引き、上映会場の確保や上映日の確定はまだ至っていないとの連絡が来ています。こちらは決まりましたら、改めて告知させていただきます。

しばらく、コロナ感染や猛暑も続きそうです。くれぐれも、体調管理に気をつけてお過ごしください。

賛助会代表 髙橋明紀代

2020年度予算(案) 2020年4月1日~2021年3月31日

160,000	
40,000	
10,000	
240,180	
450,180	
	200,000
	1,200
	10,000
	20,000
	30,000
	188,980
	450,180
	40,000 10,000 240,180

2019年度決算(2019年4月1日~2020年3月31日)

	2018年度よりの繰越金	633,342	
収	個人会員会費 90名(126口)	252,000	
	団体会員収入 5団体(7口)	70,000	
入	カンパその他の雑収入	34,000	
	合 計	989,342	
	法人プシケへの寄付		300,000
	総会・イベント費等		
	講演謝礼		10,000
	茶菓代		4,067
支	ポスター製作費		10,000
	振込料金		8,773
出	郵券•送料等		5,066
	会計手当(5,000×6回)		30,000
	2020年度への繰越金		240,180
	合 計		608,086

プシケおおた賛助会費を 2020 年 1 月 28 日から 2020 年 8 月 19 日までに納入して頂いた方(敬称略)

2019 年度分 個人会員: 3 名 2020 年度分 個人会員: 3 名

心より御礼申し上げます。今後ともよろしくお願いします。

賛助会代表 髙橋明紀代

入会のご案内

プシケおおた賛助会は、社会福祉法人プシケおおたの運営の維持・発展のために支援協力することを目的として活動を行っています。当会の趣旨にご賛同いただける方の入会をお待ちしております。会費は年間1口2000円からで、何口でも可能です。入会を希望される方は、下記口座に会費をお振込みください。

郵便振替

口座番号 00150-5-663423

加入者名 プシケおおた賛助会